

Requested Patent: JP60189575A

Title:

DATA STORAGE SYSTEM OF MEDICAL INSURANCE CHARGINGCOMPUTER ;

Abstracted Patent: JP60189575 ;

Publication Date: 1985-09-27 ;

Inventor(s): FUJISHIGE NOBUYUKI ;

Applicant(s): SANYO DENKI KK; others: 01 ;

Application Number: JP19840046008 19840309 ;

Priority Number(s): ;

IPC Classification: G06F15/20; G06F15/42 ;

Equivalents: JP1045096B, JP1560488C ;

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** To meet easily different formats of a receipt at the time of generating a receipt by dividing a series of data combining plural medical codes into arbitrary sections.

**CONSTITUTION:** When various data are keyed in through a keyboard 7, the side of a computer 11 receives the input data and calculates the total score. Then it displays the input content on a cathode-ray tube 9. Simultaneously patient data are stored in the 3rd memory 5, and one operation of one patient is terminated. On the other hand, when said input data are not terminated, a medical code reading part 4 discriminates the presence of a partition code, and when there is a partition code, a score calculating part 3 calculates scores. The information serving as a base of calculation is transmitted to the score calculating part 3 by the instructions of a patient data processing part 6. After the calculating part 3 calculates scores, it transmits the score information to the data processing part 6, which transmits said patient data to an output processing part 10. Said data are displayed on the cathode-ray tube 9, and a partition number and scores stored in the 3rd memory 5 are displayed in the same manner.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-189575

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

G 06 F 15/20  
15/42

識別記号

庁内整理番号

Z-6619-5B  
7313-5B

⑭ 公開 昭和60年(1985)9月27日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 医療保険請求事務計算機のデータ内容格納方式

⑯ 特 願 昭59-46008

⑰ 出 願 昭59(1984)3月9日

⑱ 発 明 者 藤 重 信 行 群馬県邑楽郡大泉町大字坂田180番地 東京三洋電機株式会社内

⑲ 出 願 人 三 洋 電 機 株 式 有 限 公 司 守口市京阪本通2丁目18番地

⑲ 出 願 人 東京三洋電機株式会社 群馬県邑楽郡大泉町大字坂田180番地

⑳ 代 理 人 弁 理 士 佐 野 静 夫

## 明 細 書

1. 発明の名称 医療保険請求事務計算機の  
データ内容格納方式

2. 特許請求の範囲

(1) 区分番号及び計算式の対応表が格納される第1のメモリ、診療コードが格納される第2のメモリ、点数計算部、診療コード脱出し部、患者データが格納される第3のメモリ、前記点数計算部と診療コード脱出し部と第3のメモリとに結合され、データの授受を行う患者データ処理手段、該患者データ処理手段に入力データをキーインするキーボード及び前記患者データ処理手段からの出力データを表示する表示手段を備えた医療保険請求事務計算機において、前記キーボードからの各患者に対する診療内容のキーイン時、複数の診療コードを組合せた一連のデータを所定の部分に分割する区切りを設け、前記各患者の全体点数及び各部分点数を前記第3のメモリに格納することを特徴とした医療保険請求事務計算機のデータ内容格納方式。

3. 発明の詳細な説明

(1) 産業上の利用分野

本発明は、健康保険に係る医療保険請求事務計算機のデータ内容格納方式において、診療内容の入力中即ちキーボードでキーインする際に患者データの所定の部分に区切りを設け、各部分の点数演算を行うデータ内容格納方式に関する。

(2) 従来技術

一般に健康保険医療制度に基づいて、健康保険又は国民健康保険により、患者は治療を受けている。

この保険医療に係り、例えば点数計算における処置費の点数については

合計金額  $a$  が 15 円以下のとき 0 点  
合計金額  $a$  が 15 円を超えるとき  $\frac{a-5}{10}$  点  
(小数点以下切上げ)

によって計算される。

斯る点数計算を上記事務計算機により、機械計算を行う技術については、その一例として特開昭49-121451号公報に示されている。

ところが前述の公報では、単に診療コードの組合せ全体で点数計算方式を決定していた。

ここで診療時、その処置、処置薬、特定治療材料等はそれぞれ点数計算方式が異なるので、処置、処置薬、特定治療材料等を組み合わせて上記事務計算機には入力することはできない。従って上記事務計算機には、データA、B、C、Dの中で、A+Bで何点、C+Dで何点という前記A、B、C、Dの4コードの組合せを考えた場合の計算ができない欠点があった。

#### (イ) 発明の目的

本発明は、前記欠点を除去した新規な医療保険請求事務計算機のデータ内容格納方式を提供するもので、複数の診療コードを組み合わせた一連のデータを任意の部分に分け、診療報酬明細書即ちレセプトと呼ばれる用紙に各票の要求に応じた内容を打出すことができる同方式を提供することを目的とする。

#### (ロ) 発明の構成

本発明は、区分番号及び計算式の対応表が格納

される第1のメモリ、診療コードが格納される第2のメモリ、点数計算部、診療コード脱出し部、患者データが格納される第3のメモリ、前記点数計算部と診療コード脱出し部と第3のメモリとに結合され、データの授受を行う患者データ処理手段、該患者データ処理手段に入力データをキーインするキーボード及び前記患者データ処理手段からの出力データを表示する表示手段を備えた医療保険請求事務計算機において、前記キーボードからの各患者に対する診療内容のキーイン時、複数の診療コードを組合せた一連のデータを所定の部分に分割する区切りを設け、前記各患者の全体点数及び各部分点数を前記第3のメモリに格納する構成である。

#### (ハ) 実施例

図面に従って本発明を説明すると、第1図は本発明のデータ内容格納方式を説明するためのブロック図、第2図は同方式のフローチャート、第3図は同方式におけるメモリの内容を示す状態図を示し、(1)は区分番号、計算方式の対応表を格納す

る第1のメモリ、(2)は診療コードを格納する第2のメモリ、(3)は点数計算部、(4)は診療コード脱出し部、(5)は患者データを格納する第3のメモリ、(6)は前記第3のメモリに患者データを格納し、脱出しを行う患者データ処理部、(7)はキーボード、(8)は前記キーボードからの入力信号を処理する入力処理部、(9)は表示素子としてのブラウン管、(10)は出力処理部を示す。

次に本発明の動作について説明すると、キーボード(7)から第2図に示すように、種々のデータをキーインすると、計算機(10)側に入力データを受取り、入力データが終了の場合、全体点数計算を行った後、ブラウン管(9)上に入力内容表示を行う。これと同時に第3のメモリ(5)に患者データを格納し、1人の患者分の1作業は終了する。

一方前記入力データが未終了でない場合、診療コード脱出し部(4)により、区切りコードの有無を判別し、区切りコードがあれば、点数計算部(3)にて点数計算を行い、"入力データ終了?"のステップに戻る。

又前記区切りコードがなければ、前述の"入力データ終了?"に戻る。

前記実施例において、一例として患者データのA、B、C、D及びEなる5コードを、A+B、C+D及びEの3群に分割する。このときの区切りコードを「1」とすると、キーイン時△をスペースとして

A△B△/△C△D△/△E

と入力する。

上記の例では、Eの後にも区切りコードが付加される。

そこで、キーボード(7)からキーインされた患者データは、入力処理部(8)にて処方薬その他の情報に対応して診療内容入力即ち数値のコード、数量、全体の回数の情報が患者データ処理部(6)に入力される。該患者データ処理部(6)に入力された患者データにより、診療コード脱出し部(4)に第2のメモリ(2)から診療コードを読み出すよう指示する。これに応じて前記第2のメモリ(2)から診療コード脱出し部(4)によって診療コードを脱出し、患者デー

タ処理部(6)に前記診療コードに対応する内容を示すデータが伝送される。

第1のメモリ(1)からは、患者データ処理部(6)からの指示により、区切りまでのコード、数量、区分番号及び薬価等点数計算の基となる情報を点数計算部(3)に伝送せしめて、点数計算を実行させ、該点数計算部(3)は、前記指示に対する回答として区切りまでの情報を含む点数情報が、前記患者データ処理部(6)に伝送される。

前記患者データ処理部(6)から出力処理部(10)に前記患者データを伝送し、ブラウン管(9)上に所定のデータを表示する。前記第3のメモリ(5)に格納された区分番号、点数、薬価及び薬名等が前記患者データ処理部(6)により読出され、前述の出力処理部(10)を介して同様にブラウン管(9)上に表示される。

ここで前記患者データの構造は、第3図(1)に示す通り、処方処とその他の情報、全点の点数、Aの情報、Aの数量、Bの情報、Bの数量、区切りの情報、A+Bの点数、Cの情報、Cの数量、Dの情報、C+Dの点数、Eの情報、Eの数量、区

切りの情報、Eの点数、が各々第3のメモリ(5)内に格納されている。区切りコードは"/"(スラッシュ)に設定する。

今1人の患者に対して、処置、点数及び診療コードを

A…処置：湿布      コードとしてシブ

B…処置薬：ヘルベックス20g

(1gは2.5円)

コードとしてヘルベツ

C…処置薬：テラジアバスタ10g

(1gは3.4円)

コードとしてテラシア

D…特定治療材料：腐木      350円

コードとしてフクギ

E…特定治療材料：包帯      90円

コードとしてハウタイ

に設定すると、キーボード(7)によるキーインは

シブ△/△ヘルベツ20△テラシア10△

/△フクギ△ハウタイ

(a) 処置の点数は24点

#### (b) 処置薬の点数

- ・合計金額が15円以下のとき … 0点
  - ・合計金額が15円を超えるとき… $\frac{\text{合計金額}-5}{10}$ 点
- 従って  $2.5 \times 20 + 3.4 \times 10 = 84$  (円)
- であるから8点となる。

#### (c) 特定治療材料の点数

合計金額を10で除し、余りを四捨五入すると  $440 / 10 = 44$  点となる。

#### (d) 合計点数

$$24 + 8 + 44 = 76 \text{ (点)}$$

以上の結果、患者データの格納された状態は、第3図(1)に示す構造となる。従って診療報酬明細書(レセプトと呼ばれる)の内容の記述方法が、各都道府県によって異なる場合、例えば次の三つの例に対して本発明の方式では対応できる。

(i) 処置を記載し、その処置に使用した処置薬をすぐ下に記載する。

(例) 処置 A

処置薬 B      50×1(円)

処置 C

処置薬 D      70×3(円)

(ii) 処置、処置薬の各点数を記載し、合計点数も記載する。

(例) 処置 A      30×1(円)

処置薬 B      20×1(円), 50×1(円)

(iii) 処置だけを続けて列記し、その後処置薬を列記する。

(例) 処置 A      30×1(円)

処置 C      45×1(円)

処置薬 B      20×1(円)

処置薬 D      25×1(円)

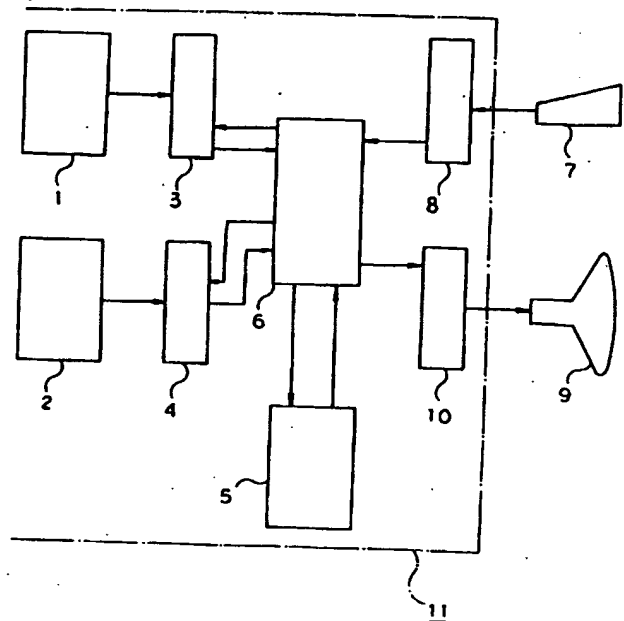
#### (4) 発明の効果

本発明の医療保険請求事務計算機のデータ内容格納方式によれば、社会保険、国民保険等各種の健康保険に係る医療保険請求に際し、レセプトの作成に対し、各都道府県のレセプトの様式が異なっても、簡単に対応させることができる利点が見られる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の医療保険請求事務計算機のデ

第1図



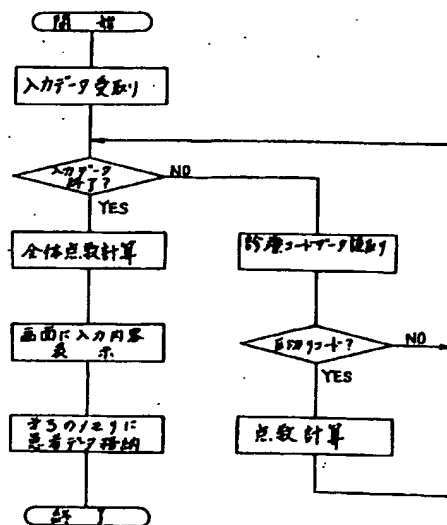
データ内容格納方式を説明するためのブロック図、  
第2図は同方式のフローチャート図、第3図は第  
1図における要部メモリのデータ構造を示す状態  
図である。

主な図番の説明

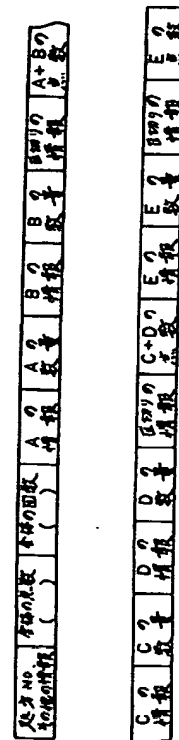
- (1)…第1のメモリ、(2)…第2のメモリ、(3)  
…点数計算部、(4)…診療コード読出し部、(5)  
…第3のメモリ、(6)…患者データ処理部、(7)  
…キーボード、(8)…入力処理部、(9)…ブラウ  
ン管、(10)…出力処理部。

出願人 三洋電機株式会社 外1名  
代理人 弁理士 佐野 勝夫

第2図



第3図(イ)



第3図(ロ)

足番号 その他の情報	全体の足数 (76)	全体の回数 (1)	ラングの 情報	1	区切りの 情報	24
---------------	---------------	--------------	------------	---	------------	----

ヘンソンの 情報	20	ラジアの 情報	10	区切りの 情報	8
-------------	----	------------	----	------------	---

フツギの 情報	1	ホウフイの 情報	1	区切りの 情報	44
------------	---	-------------	---	------------	----